

2013.7.3 受

ご担当者様

ノ

FAX 返送先: 日本YWCA 03-3292-6122

みんなの党への質問

1. 橋下徹大阪市長は、一度発言し批判されたものを自ら振り返らず、相手に応じてすり替え、発言の内容を強化しメディアに露出し続けています。人権感覚の欠如した姿勢と発言の非一貫性を押し通すのは、公的立場とメディアの悪用ではないでしょうか。

<質問>公的立場とマスメディアの悪用ではないですか。

ご意見:

申し訳:「ゴ」いまでも、地産党首、発言は「？」
の是非を、公的として判断する事は適切では
ないと考えます。回答が「いまでも」とご理解下さい。

2. 影響力のある政治家が、過去の政府の公式発言(河野談話など)を否定することには責任が伴うはずですが。アジアの国々からはもちろんのこと、国連拷問禁止委員会の慰安婦問題に関する公人の行為について勧告が出されるなど、国際的には重大な信用の失墜です。日本は今も、戦前の国家主義体質を帯びた公的発言のたびに、民間団体や個人が国際的な失策を手当し補完しようとする不思議な国です。結局、歴史認識を曖昧にした「つけ」を払い、背負うのは市民であり、築き上げた信頼関係を損なうのが一部の政治家であるのは納得できません。

<質問>歴史認識を欠いており、国際的信用の失墜に対し無責任ではないですか。

ご意見:

同上

3. 橋下徹大阪市長は政治的立場のために、強いアメリカには謝罪しましたが、元『慰安婦』を始めとする女性および男性への侮辱については謝罪していません。「当時は仕方なかった、性産業も生業の一つだ。仕事で疲れた男を性的接待でいやすのは当然だ。他の国もやっていた。強制連行の記録はない」という発言に見られる道義的責任感の欠如を問います。

<質問>モラル・道義的責任感の欠如ではないですか。

ご意見:

同上

みんなの党 政策調査会

担当 高崎

☎ 5216-3710

☎ 5216-3711